

2018年3月期 第1四半期決算説明会

SWIFT
Sport



新型「スイフトスポーツ」
2017年9月12日開催の第67回フランクフルト
国際モーターショーで世界初公開

スズキ株式会社

2017.8.3

第1四半期実績

- 連結業績 … 増収増益、各利益過去最高※1**

売上高	8,693億円、前年同期比+15.3%	2期振り増収
営業利益	851億円、前年同期比+43.8%	6期連続増益
経常利益	995億円、前年同期比+62.4%	2期振り増益
四半期純利益※2	654億円、前年同期比+72.4%	2期連続増益

 - ・増収…インド、日本、欧州等での四輪販売増加、二輪の販売増加等
 - ・増益…日本、アジア、欧州での損益改善等

- 四輪世界販売 … 741千台（前年同期比+9.7%）で過去最高※1**

 - ・インド、日本、欧州、インドネシア等で増加

- 二輪世界販売 … 378千台（前年同期比+13.1%）**

 - ・インド、インドネシア等で増加

業績予想

- 期初予想を据置き**

※1. 第1四半期決算公表(2003年6月期)以来、過去最高 ※2. 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

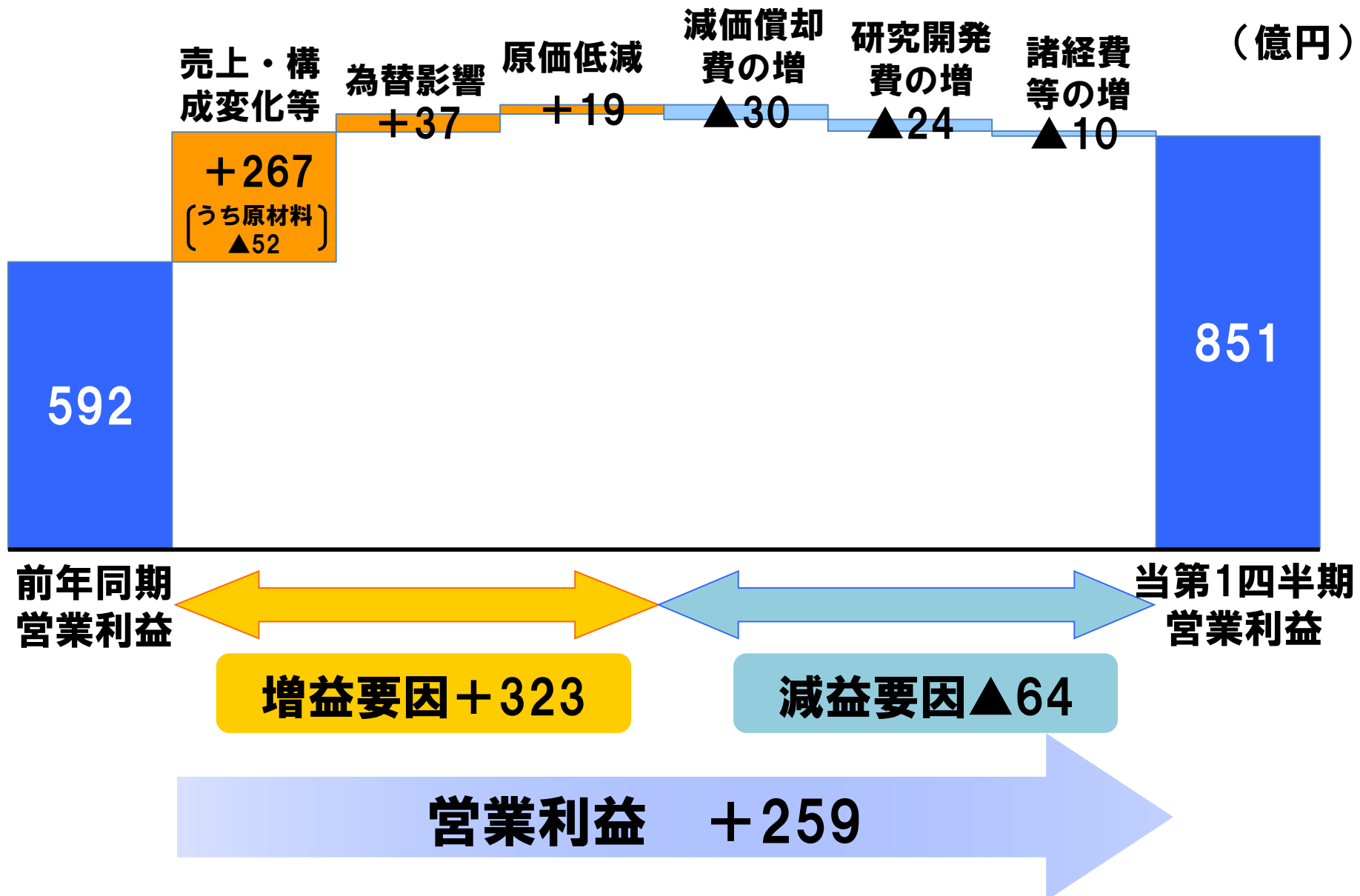
増収増益・各利益過去最高

(億円)	当第1四半期 (’17/4-6)	前年同期 (’16/4-6)	増 減	
			増	減 増減率
売上高	8,693	7,540	+1,153	+15.3%
国内売上	2,669	2,500	+169	+6.8%
自 社	2,426	2,280	+146	+6.4%
O E M	243	220	+23	+10.5%
海外売上	6,024	5,040	+984	+19.5%
営業利益 (利益率)	851 (9.8%)	592 (7.8%)	+259	+43.8%
経常利益 (利益率)	995 (11.4%)	613 (8.1%)	+382	+62.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (利益率)	654 (7.5%)	380 (5.0%)	+274	+72.4%

各地域・各事業で増加

(億円)	四輪車			二輪車			特機等			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	2,574	2,413	+161	55	50	+5	40	37	+3	2,669	2,500	+169	
自 社	2,331	2,193	+138	55	50	+5	40	37	+3	2,426	2,280	+146	
OEM	243	220	+23							243	220	+23	
海外計	5,299	4,431	+868	561	457	+104	164	152	+12	6,024	5,040	+984	+220
欧州	1,106	979	+127	145	123	+22	56	45	+11	1,307	1,147	+160	▲6
北米	4	6	▲2	94	59	+35	73	74	▲1	171	139	+32	+3
アジア	3,644	2,916	+728	249	196	+53	13	12	+1	3,906	3,124	+782	+207
インド	2,769	2,164	+605	101	68	+33	1	1	+0	2,871	2,233	+638	+176
〃以外	875	752	+123	148	128	+20	12	11	+1	1,035	891	+144	+31
その他	545	530	+15	73	79	▲6	22	21	+1	640	630	+10	+16
総合計	7,873	6,844	+1,029	616	507	+109	204	189	+15	8,693	7,540	+1,153	+220
内、為替 換算影響			+209			+9			+2			+220	

注. 当期…2017年4～6月期、前期…2016年4月～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等



	当第1四半期 (’17/4-6)	前年同期 (’16/4-6)	増 減	営業利益 為替影響
米ドル	111円	108円	+3円	+5億円
ユーロ	122円	122円	+0円	+1億円
インドルピー	1.74円	1.63円	+0.11円	+31億円
インドネシアルピア (100ルピア当り)	0.84円	0.81円	+0.03円	+4億円
タイバーツ	3.24円	3.06円	+0.18円	▲4億円
その他	—	—	—	▲0億円 ※
計				+37億円

※ルーブル+3億円、オーストラリアドル+2億円、パキスタンルピー+2億円、ポンド▲12億円、他

連結：設備投資、減価償却費、 研究開発費、及び有利子負債残高

(億円)

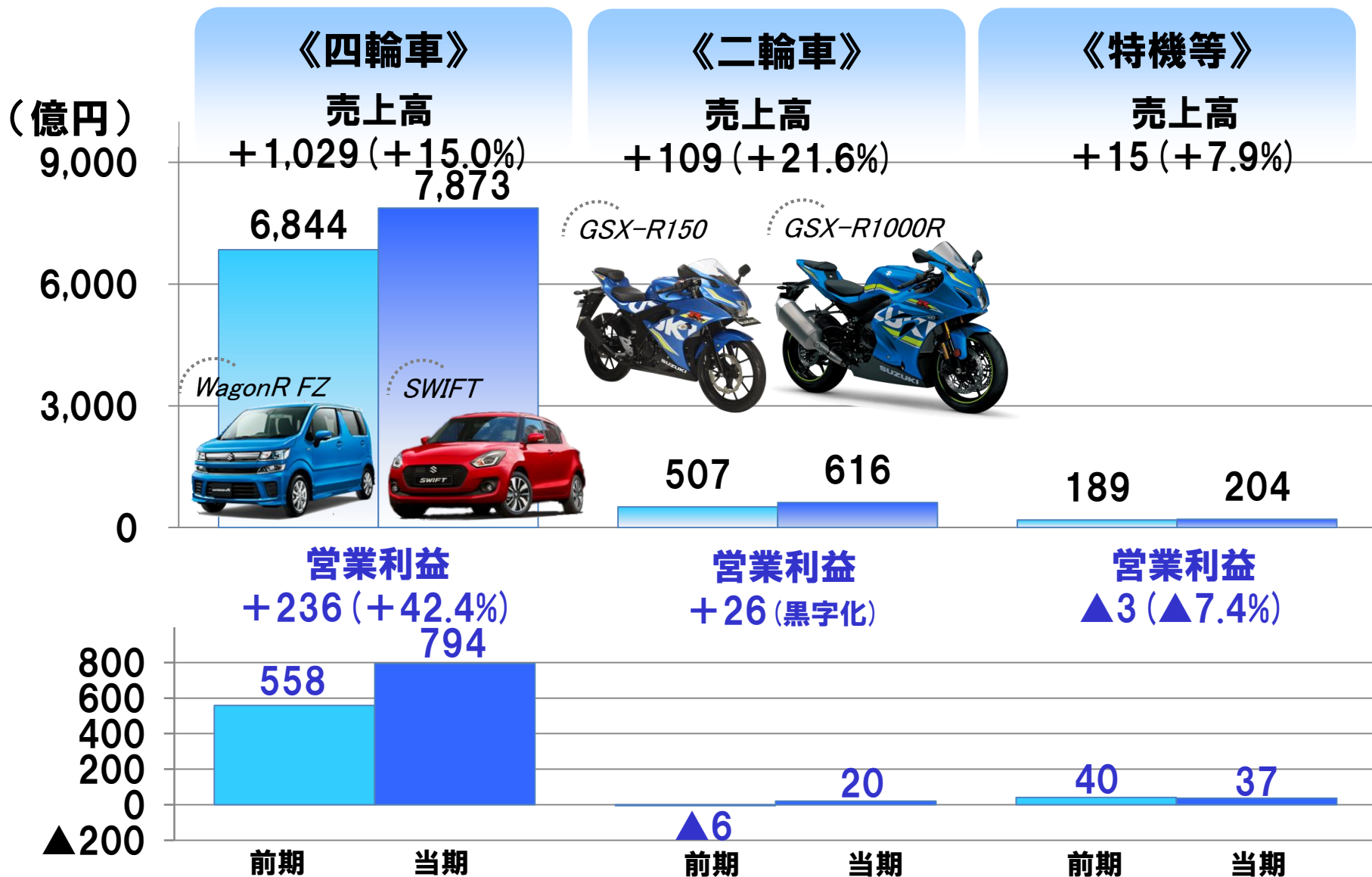
	当第1四半期 ('17/4-6)	前年同期 ('16/4-6)	増 減
(当社単独)	101	145	▲44
(子 会 社)	316	249	+67
設 備 投 資	417	394	+23
減価償却費	402	372	+30
研究開発費	300	276	+24

	当第1四半期末	前年同期末		前期末	
	('17/6末)	('16/6末)	増 減	('17/3末)	増 減
有利子負債残高	6,716	6,320	+396	6,399	+317

(億円)



連結：事業別業績 (売上高・営業利益)



※当期・・・2017年4月～6月期、前期・・・2016年4月～6月期

二重反転プロペラなど新技术を投入

- 当社船外機では最大となる350馬力を実現したフラッグシップモデル
- スズキ初の二重反転プロペラ「スズキデュアルプロップシステム」採用
- 豊川工場で生産、7月よりアメリカで販売開始、世界各国で順次発売

DF350Aの主な特長

最大出力350馬力の新型エンジン

- ・ 排気量4,390cm³、4ストロークV型6気筒、高圧縮比12.0
- ・ ダイレクトインテークシステム、スズキデュアルルーバーシステム、デュアルインジェクターと最適な燃焼室形状

スズキデュアルプロップシステム

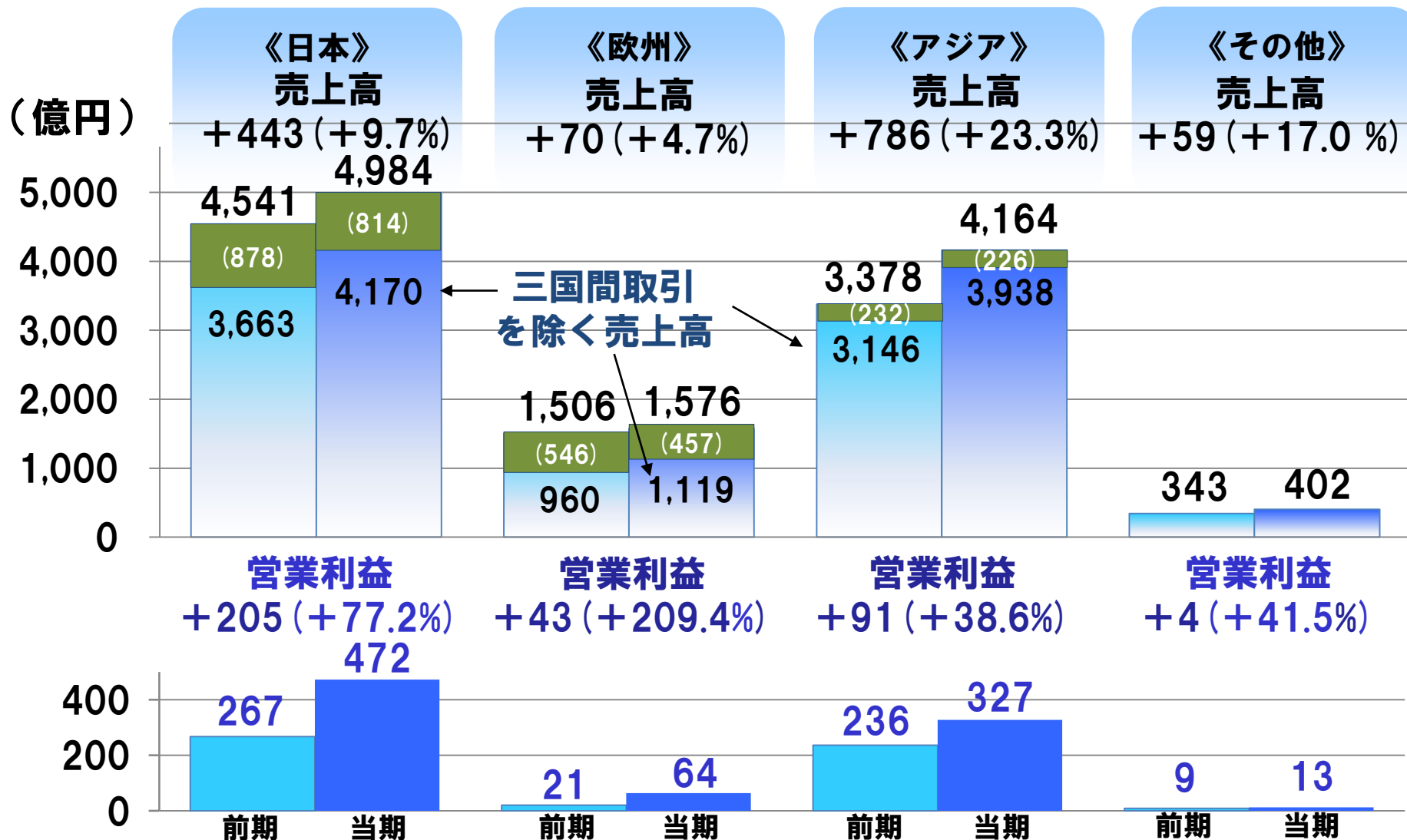
- ・ 反転する2枚のプロペラを組み合わせ（二重反転プロペラ）
→ エンジン出力をより効率的に推進力に変換
- ・ 小型化したギヤケースが水中抵抗を低減
→ 高い走行性能と直進安定性

先進的なスタイリング

THE
ULTIMATE
4-STROKE OUTBOARD



連結：所在地別業績 (売上高・営業利益)



注. 三国間取引について

※当期・・・2017年4月～6月期、前期・・・2016年4月～6月期

従来、ハンガリー生産車の欧州域内への子会社向け売上高は、域内子会社間取引として消去されていましたが、取引形態を日本経由の三国間取引に変更したため、日本向け売上高及び日本から欧州への売上高が消去されず、日本・欧州ともに売上高がその分、多く表示されています。アジアについても同様な取引があります。

	当第1四半期末	前年同期末		前期末	
	('17/6末)	('16/6末)	増減	('17/3末)	増減
連結 子会社数	136社	136社	±0社	136社	±0社
持分法適用 関連会社数	33社	33社	±0社	32社	+1社
従業員数	64,687人	62,764人	+1,923人	62,992人	+1,695人

期初予想を据置き

	通期予想			上期予想			(億円)
	当期予想	前期実績	増減	当期予想	前期実績	増減	
売上高	34,000	31,695	+2,305	16,000	14,990	+1,010	
営業利益 (利益率)	2,400 (7.1%)	2,667 (8.4%)	▲267	1,200 (7.5%)	1,155 (7.7%)	+45	
経常利益 (利益率)	2,550 (7.5%)	2,867 (9.0%)	▲317	1,250 (7.8%)	1,218 (8.1%)	+32	
当期純利益※ (利益率)	1,450 (4.3%)	1,600 (5.0%)	▲150	700 (4.4%)	999 (6.7%)	▲299	
設備投資	2,200	1,988	+212				
減価償却費	1,800	1,634	+166				
研究開発費	1,500	1,315	+185				

※親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

《通期営業利益 増減要因》

増益要因		減益要因	
原価低減	+270	諸経費等の増	▲400
売上・構成変化等	+223	研究開発費の増	▲190
		減価償却費の増	▲170
増益要因 計	+493	減益要因 計	▲760
		差引	▲267

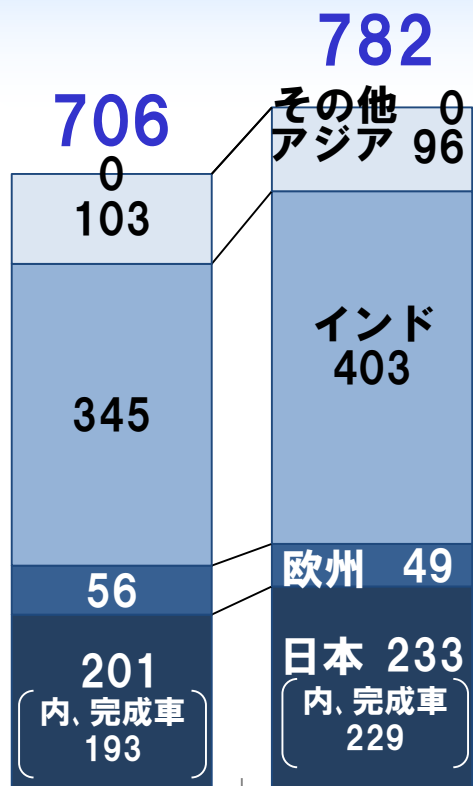
《為替レート・為替影響》

	通期予想			営業利益 為替影響
	当期予想	前期実績	増減	
米ドル	110円	108円	+2円	+10
ユーロ	115円	119円	▲4円	▲46
インドルピー	1.65円	1.63円	+0.02円	+26
インドネシア※	0.85円	0.82円	+0.03円	+14
タイバーツ	3.10円	3.08円	+0.02円	▲1
※インドネシアは 100ルピア当り	その他通貨			▲3
	為替影響額 計			±0

生産、販売ともに第1四半期としては過去最高

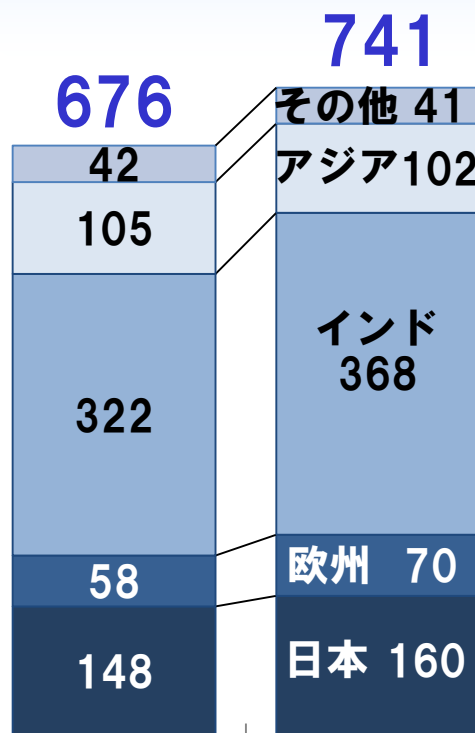
《生産実績》

+76千台 (+10.8%)



《販売実績》

+66千台 (+9.7%)
(千台)



●当期（4～6月）の世界販売

- ・741千台（前年同期比+9.7%）で、過去最高を更新
- ・日本（同+8.1%）、欧州（同+19.8%）、インド（同+14.3%）で増加
- ・一方、インドを除くアジアは中国の減少により、前年同期比▲3.6%と減少

前年同期
'16/4-6

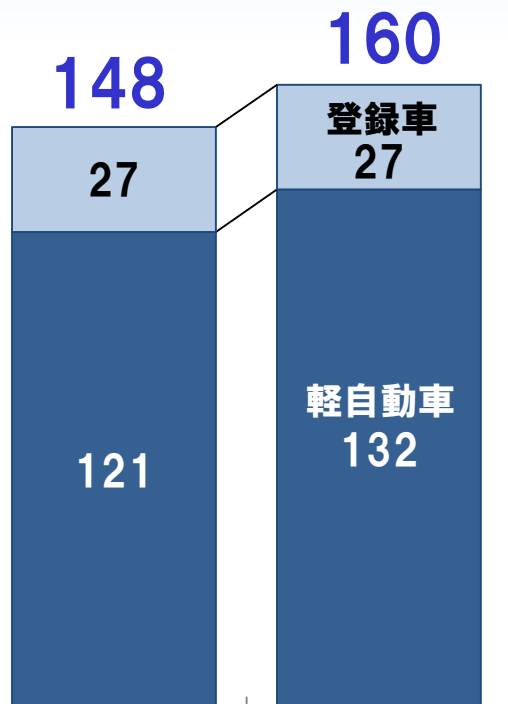
当第1四半期
'17/4-6

前年同期
'16/4-6

当第1四半期
'17/4-6

「ワゴンR」「スイフト」など新型車が貢献

《第1四半期比較》
 +12千台（+8.1%）
 （千台）



●当期（4～6月）の国内販売

- ・軽自動車は前年同期比+9.2%
- ・登録車は前年同期比 +3.3%

●トピックス

- ・7月6日より「SX4 S-CROSS」を一部仕様変更し発売
- ・7月12日、「スイフト」に駆動用モーターとオートギヤシフトを組み合わせたスズキ独自のハイブリッドシステム搭載車を追加
- ・7月26日よりコンパクトSUV「エスクード」に1.4L直噴ターボエンジン搭載車を追加し発売



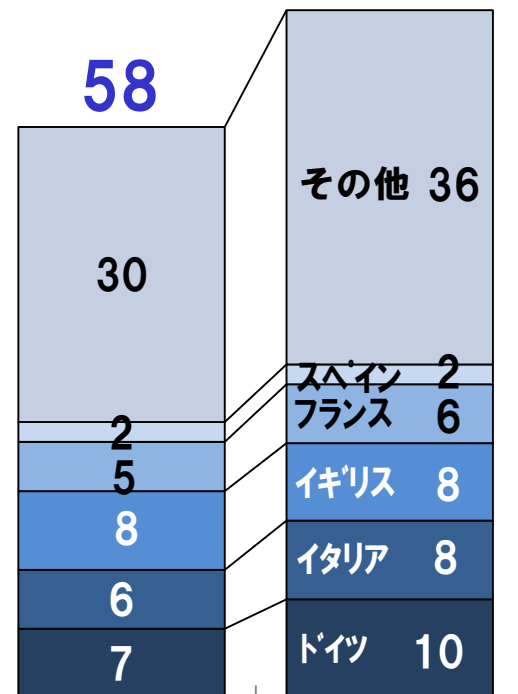
前年同期
'16/4-6

当第1四半期
'17/4-6

「イグニス」「SX4 S-CROSS」が貢献

《第1四半期比較》
+12千台（+19.8%）
（千台）

70



●当期（4～6月）の欧州販売

- ・ 欧州全体では、新型「イグニス」、およびフェイスリフトを施した新型「SX4 S-CROSS」の貢献等により前年同期比+19.8%と増加
- ・ ドイツは前年同期比+29.6%、イタリアは前年同期比+34.7%、フランスは前年同期比+19.8%、スペインは前年同期比+18.1%と各国で増加
- ・ 尚、イギリスについてはCO2増税に伴う前年度末の駆込み需要の反動等により前年同期比▲6.1%と減少

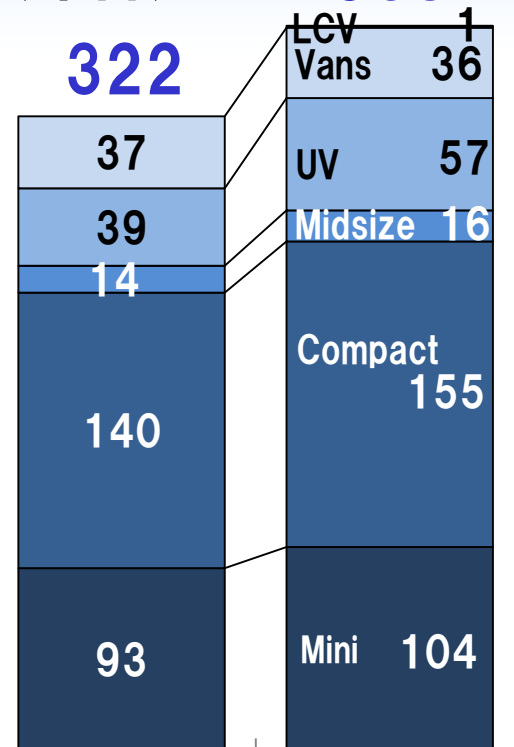


前年同期
'16/4-6

当第1四半期
'17/4-6

インドの販売台数は過去最高を更新

《第1四半期比較》
+46千台（+14.3%）
（千台）



●当期（4～6月）のインド販売

- 6月は7月からのGST導入の影響があったが、4～6月累計は368千台となり、第1四半期としては過去最高を更新

●トピックス

- 4月から「シアズ」をネクサ店に移管
- 5月16日、新型「ディザイア」発売開始
- 6月27日、スズキがインド・グジャラート州メーサナ地区に開校を進めている職業訓練校「マルチ・スズキJIM（Japan-India Institute for Manufacturing）」が、経済産業省より「日本式ものづくり学校」の第1号として認定



注. 車種区分 (LCV=Light Commercial Vehicles, UV=Utilities Vehicles)

- LCV … Super Carry
- VANS … Omni, Eeco
- UV … Gypsy, Ertiga, S-Cross, Vitara Brezza
- Midsize … Ciaz
- Compact … Swift, Ritz, Celerio, Ignis, Baleno, Dzire
- Mini … Alto, WagonR

前年同期
'16/4-6

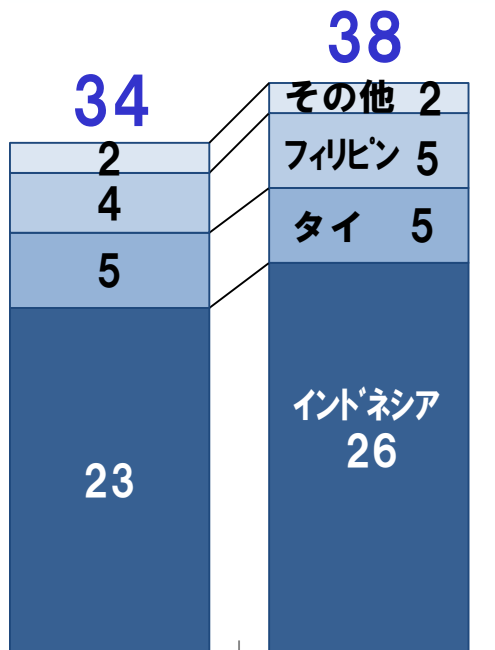
当第1四半期
'17/4-6

インドネシアの販売増等により増加

《第1四半期比較》

+4千台（+10.3%）

（千台）



前年同期 当第1四半期

'16/4-6

'17/4-6

※アセアン：インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム 5ヶ国合計

●当期（4～6月）のアセアン

- ・インドネシアは新型「イグニス」の販売貢献や、「エルティガ」等の増加により、前年同期比+12.3%

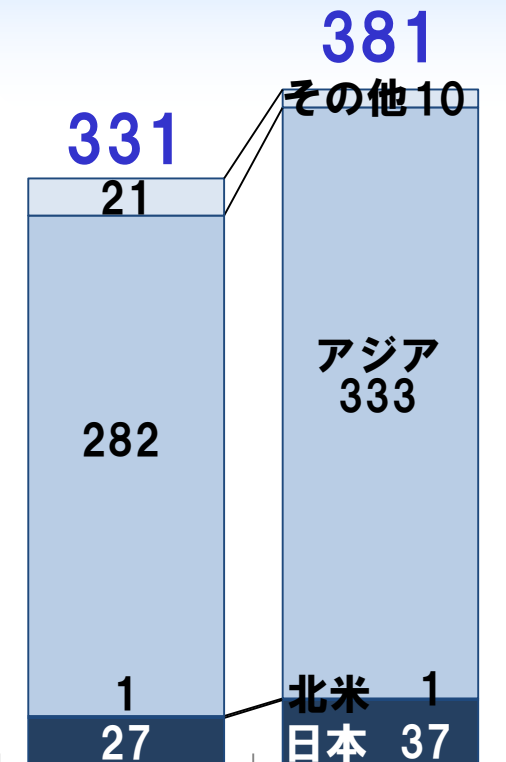


- ・タイは「シアズ」が増加したが、「スイフト」の減少により、前年同期比▲2.4%
- ・フィリピンは「エルティガ」「シアズ」等の増加により、前年同期比+37.5%と引き続き拡大

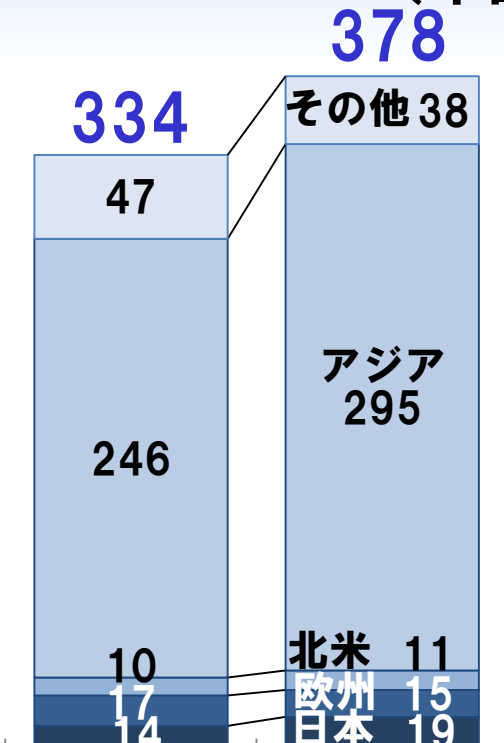


アジアの増加により生産・販売ともに増加

《生産台数》
+49千台 (+14.9%)



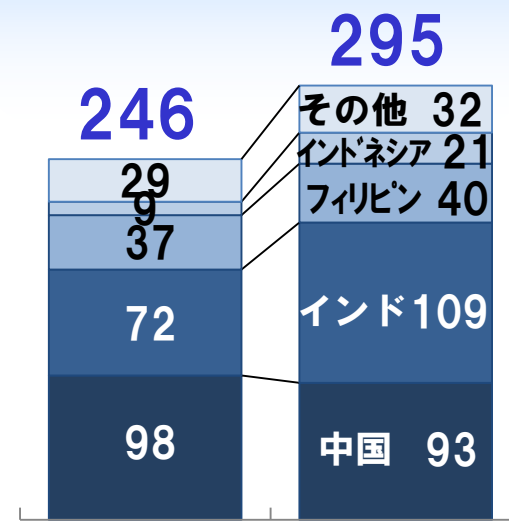
《販売台数》
+44千台 (+13.1%)
(千台)



●当期(4~6月)の二輪車

- ・インド、インドネシアなどの増により、生産、販売ともに前年を上回る

《アジアの内訳》
+49千台 (+19.9%)



前年同期 当第1四半期

前年同期 当第1四半期

前年同期 当第1四半期

※当第1四半期・・・2017年4月～6月期、前年同期・・・2016年4月～6月期

●新型「GSX-R1000」

- ・スズキを代表するスーパースポーツバイク、全面改良し本年より世界各国で発売
- ・マン島TTのシニアTTレースクラスで優勝し性能の高さを証明（6月）
 - ・マン島TTは、1907年から行われている歴史ある二輪車の公道レース
 - ・「GSX-R1000」での優勝は2008年以来、9年ぶり
 - ・シニアTTレースクラスでは2004年以来、13年ぶり
- ・「GSX-R1000R ABS」を日本で発売開始、初めて日本仕様を設定（7月）



GSX-R1000R ABS



V-Strom250

●スポーツアドベンチャーツアラー「V-Strom」シリーズ

- ・シリーズ共通イメージのデザインを採用
- ・1000ccモデル、650ccモデルを全面改良するとともに新たに250ccモデルを設定

●新型「バーグマン400ABS」

- ・エレガントなスタイリングと快適性、充実した収納、動力性能を兼ね備えた400ccのラグジュアリースクーター
- ・全面改良し本年夏より欧州、北米を中心に発売
- ・日本でも8月4日から発売開始



BURGMAN400 ABS

期初予想を据置き

(千台)	通期生産台数				通期販売台数			
	予想 (17年度)	前期実績			予想 (17年度)	前期実績		
		(16年度)	増減	増減率		(16年度)	増減	増減率
<四輪車>								
日本	980	871	+109	+12.6%	645	639	+6	+1.0%
欧州	161	203	▲42	▲20.8%	267	245	+22	+9.1%
アジア	2,139	1,999	+140	+7.0%	1,983	1,870	+113	+6.0%
その他	2	1	+1	+51.3%	176	164	+12	+7.1%
合計	3,282	3,074	+208	+6.8%	3,071	2,918	+153	+5.2%
<二輪車>								
日本	158	141	+17	+12.2%	67	62	+5	+8.1%
欧州	—	—	—	—	53	45	+8	+17.9%
北米	5	4	+1	+13.2%	40	32	+8	+25.5%
アジア	1,180	1,162	+18	+1.5%	1,073	1,039	+34	+3.3%
その他	56	63	▲7	▲10.9%	186	190	▲4	▲1.9%
合計	1,399	1,370	+29	+2.1%	1,419	1,367	+52	+3.8%

2018年3月期 第1四半期決算説明会



スズキ株式会社

将来予想に関する注意事項

※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場)などが含まれます。